

美しき情熱の国スペイン世界遺産紀行



2010年11月

右城猛・絹枝

美しき情熱の国スペイン世界遺産紀行(2010年11月)

右城 猛

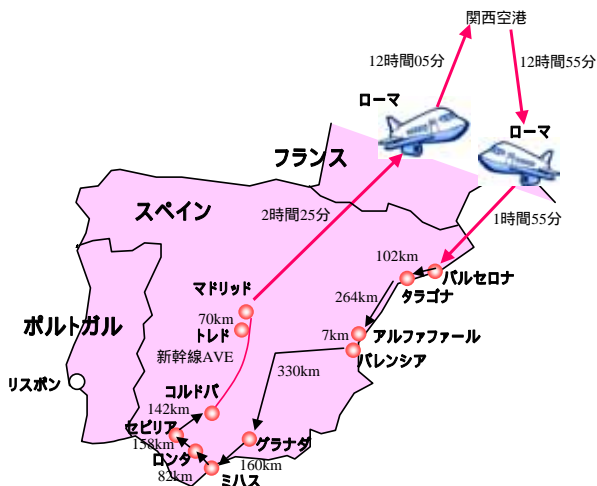
1. まえがき

還暦を迎えた記念にヨーロッパ旅行をしたいと考えていた。仕事に追われる日々を過しているが、阪急交通社が企画していた「RKCハッピーツアー-田村ワローさんと行く“美しき情熱の国スペイン世界遺産紀行 8日間”」というツアーの日程にたまたまあったので、家内と一緒に参加することにした。

バルセロナ、バレンシア、グラナダ、セビリア、マドリッドなどスペイン旅行の定番になっている観光名所を時計回りに巡る旅である。

コルドバとマドリッド間は新幹線 AVE を利用するが、それ以外の 1,666km はバスの旅となる。

ツアーの参加者は田村和郎さんを含めて、高知龍馬空港を出発するときには 35 名であったが、関西国際空港からは 34 名となった。



旅行コース

宿泊ホテル

月日	
11月16日	トリップ バルセロナ アエロプエルト (バルセロナ)
17日	ベストウェスタンアルプフェラ (アルファファール)
18日	AH グラナダパレス(グラナダ)
19日	ベルティエーチェ (セビリア)
20, 21日	オキシデンタル ミゲルアンヘル(マドリッド)

日程表

日	現地時間	観光地
16日(火)	8:05 14:10 21:30	高知龍馬空港発 NH556 伊丹空港 関西空港 関西空港発 (アリタリア航空 AZ793) ローマ着 19:05 ローマ発 (アリタリア航空 AZ078) バルセロナ着 23:20 バルセロナ着 バルセロナ泊
17日(水)	9:00 13:00 19:50	バルセロナ観光(4時間)【聖家族教会、グエル公園、カタルーニャ音楽堂、カサミラ】、雑貨店(45分) 昼食(パエリア) タラゴナ 地中海バルコニーからローマ遺跡群見学 バレンシアのホテル着 ホテル内のレストランでウエルカムパーティー
18日(木)	8:00 14:15 19:00/25	バレンシア観光(40分)【ラ・ロンハ、カテドラル】 ラ・マンチャ地方(20分) 昼食(ドンキホーテメニュー) グラナダへ グラナダのホテル着
19日(金)	8:00 13:00 20:00 19:45	グラナダ観光(2時間 30分)【アルハンブラ宮殿、ヘネラーリフェ庭園】 昼食(ローストチキン) ミハス散策(40分) ロンダ観光【旧市街、ヌエボ橋】(60分) セビリアのホテル到着 夕食はホテルで
20日(土)	8:45 12:00 22:00	セビリア観光(3時間)【カテドラル、アルカサル、スペイン広場】 ショッピング(45分) 昼食(中華料理) コルドバ歴史地区観光【メスキータ、花の小路】(90分) 新幹線 AVE でマドリッドへ(2時間) 夕食(タパス料理) マドリッドホテル着
21日(日)	9:00 13:00 18:30 20:15 22:45	マドリッド観光(3時間)【ブラド美術館、王宮、スペイン広場】 ショッピング(革製品)(45分) 昼食(日本料理) トレド観光(2時間)【カテドラル、サント・トメ協会】 ホテル到着 夜はフラメンコディナーショー ホテル到着
22日(月)	3:30 6:00 8:25 11:15 15:15	ホテル出発 マドリッド発 AZ059 便でローマ ローマ着 市内観光【コロッセオ、トレビの泉】 昼食(ピザ) ローマ発 AZ792 便で日本へ
23日(火)	11:20 17:55 18:40	関西国際空港着 伊丹空港発 NH1615 便で高知空港へ 高知龍馬空港着

2. 旅立ち (11月16日)

高知龍馬空港に7時に集合し、2階ロビーのラウンジで結団式。阪急交通社高知支店の所長と田村和郎さんから挨拶があった。

「RKCハッピーツアー」は約20年前から毎年1~2度企画されている。修学旅行のような雰囲気があり、高知に帰ってきた頃には参加者同士がすっかり仲良くなっているとのことであった。

高知龍馬空港 8 時 5 分発の NH556 便で大阪伊丹空港に飛び、貸切りバスで関西空港に行く。添乗員は、阪急交通社の人気添乗員の田宮勝則さん。大阪伊丹空港で出迎えてくれた。

関西空港でアリタリア航空にスーツケースを預ける段になって、並んでいた列から一人の女性が離れていった。間違っ有効期限切れの古いパスポートを持参してきたことに気がついたようである。

今からパスポートを送ってもらっても出発便には間に合わない。旅行代金は返却してもらえないだろうし、関西空港からの帰りの交通費も別に出さなければならない。何よりも旅行話を楽しみに待っている家族に合わす顔がないだろう。嘘のような話であるが、よくあるようである。

関西空港でユーロと両替する。レートは 117.11 円。



レオナルド・ダ・ヴィンチ空港

関西空港を 14 時 10 分発のアリタリア航空 AZ793 でローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港に現地時間の 19 時 5 分に到着する。所要時間は 13 時間。イタリアと日本との時差は 8 時間。

ローマで入国審査を受ける。パスポートをざっと見るだけで質問は何もない。驚くほどあっさりしている。ただし、手荷物検査はシビア。田宮さんから、上着、ベルト、時計などすべて外して籠に入れるように指示を受ける。それでも検査で引っかかった方がいた。ポケットにコインを入れていたようである。

3. バルセロナ (11 月 17 日)

レオナルド・ダ・ヴィンチ空港 21 時 30 分発のアリタリア航空 AZ078 に乗り継いで 23 時 20 分にバルセロナ空港へ到着。

スペインは EU 加盟国間でシェンゲン協定を結んでいる。イタリアで入国審査を受けたので、スペインでの出入国審査は必要ない。

バルセロナの「トリップ バルセロナ アエロプエルト ホテル」に 0 時 30 分に到着。日本時間の 8 時 30 分。高知龍馬空港を出発してから 18 時間 25 分経過している。

ホテルは空港から約 10 分の距離にあり、すぐ側を高速道路 E15 線が走っている。とても便利な場所にある。

モダンなデザインのホテルで、広々としたロビーの中央には、全ての階を見渡せるアトリウムがある。「旅物語」のバッチを付けた別の日本人グループも宿泊していた。



トリップ バルセロナ アエロプエルト ホテルのロビー



宿泊したホテル

バルセロナは、スペインの首都マドリードに次ぐ第2の都市。市内の人口は160万人。近郊の都市圏を含めると508万人。EUではパリ、ロンドン、マドリードに次ぐ第4位の都市である。

1992年にはバルセロナオリンピックが開催された。

3.1 聖家族教会

サグラダ・ファミリア教会とも呼ばれる聖家族教会は、建築家アントニオ・ガウディの設計によるもので、年間200万人の観光客が訪れている。

教会の建築は1882年から始められ、現在も工事が進められている。2026年の完成を目指しているが、少なくともまだ30年かかるという話であった。



ガウディの生存中に完成された「生誕の門(ファサード)」とそれを飾る4本の塔



聖家族教会は現在も工事が進められている。



「生誕の門」の裏側は「受難の門」。受難の門の彫刻は、は前衛彫刻家スピラックスによるもので、生誕の門とはデザインが全く異なっている。



教会の内側は動植物がテーマ、柱はセロリ、天井は葉っぱをイメージしている。



教会の地下にある工房。教会の地下には、この教会の歴史を示す写真のパネルや完成予想図、模型などが展示されている。



バルセロナ市内には観光用の二階建てバスが運行されている。

3.2 グエル公園

1900年から1914年にかけて、グエル伯爵とガウディによって造られた分譲住宅地であったが、買い手がつかなかったため市に寄付されグエル公園となった。

1984年にはユネスコの世界遺産に登録されている。



ヤシの木をイメージした橋脚で支えられた橋



首から上が見えない透明人間の人形。



グエル公園の入り口。重厚な鉄製の扉がある。



ガウディが住んでいた家。



入り口を入ると二人の美人の女性が、カーヌーン(アラブ音楽で伝統的に使われる)と思われる撥弦楽器を演奏し、CDを販売していた。



中央広場。公園入り口からの道路脇や中央広場

では、シートを広げて無許可でアクセサリなどの小物を売っている。警察がときどき取り締まりに来ると上手く逃げ、再び売り始める。



ガラスの破片が埋め込まれた曲線の付いたベンチ。ベンチに座るとおとぎの国に来ているよう。



列柱廊。ヤシの木をイメージして作られた柱。



ゲエル公園のシンボルであるトカゲのオブジェ。トカゲのオブジェの玩具は、マドリッドのあちこちの土産店で売られている。



中央広場を支える 86 本の柱。



ゲエル公園の正面入り口から中央広場に上る階段。



ゲエル公園の正面入り口にある小屋。まるでおとぎの国に来ているようである。

3.3 カタルーニャ音楽堂

カタルーニャ音楽堂は建築家リュイス・ドメネク・イ・ムンタネーによって設計されたコンサートホールである。

世界遺産に登録されており、毎年 50 万人以上の人々が交響楽や室内楽、ジャズ、伝統音楽などを楽しむためにこのホールを訪れている。



カタルーニャ音楽堂

3.4 カサ・ミラとバルセロナの街並み



バルセロナのグラシア通りにあるカサ・ミラ。ガウディが設計した実業家ペレ・ミラとその妻ルゼー・セギモンの邸宅で、世界遺産に登録されている。



クリスマスに備えてイルミネーションの飾り

付けが行われていた。電球に明かりがともるのは11月26日から1月6日までの期間。街路樹にはプラタナスが多い。



旧市街の建物は、隣の建物との間に隙間がない。



エスカレーターが付いた地下鉄の入り口



自転車道がよく整備されている。



駐輪場とレンタルサイクルを街中でよく見かけた。

3.5 バルセロナでの昼食



バルセロナオリンピックのときに作られたオリンピック村。左側の港はヨットハーバーになっており、無数のヨットが係留されていた。



ヨットハーバーの中にあるレストランでパエリアを食べる。

大きな鍋で沢山を作ったパエリアを皿に入れて出してくれた。お代わり自由であったが、前菜に野菜サラダをたっぷり食べていたので一皿のパエリアを平らげるのがやっとであった。



レストランの従業員は陽気で愛嬌たっぷり。

4. タラゴナ (11月17日)

タラゴナは、バルセロナから約 80 キロ南東の方向に位置する港湾都市。レウスなど近郊の都市を含めた人口は 34 万人。物流の要所になっている。

古代ローマ時代に築かれた水道橋や円形競技場などの遺跡が残り、世界遺産に登録されている。



必見とされている水道橋を見るのを楽しみにしていたが、見えたのは高速道路を走行中のバスの窓から一瞬だけであった。



円形競技場は、遊歩道から柵越えに見物する。柵内は有料であるが、柵の外から見るのは無料。



円形競技場の近くに遺っている城壁。

5. バレンシア (11月17日、18日)

バレンシアは、マドリード、バルセロナに次ぐ人口75万人のスペイン第3の都市。毎年3月に行われる火祭りで有名。

5.1 ウェルカムパーティー (11月17日)

19時30分にバレンシア郊外のホテル「ベストウエスタンアルプフェラ」に到着。20時30分より田村和郎さんを囲んでウェルカムパーティー。



田村和郎さんと添乗員の田宮勝則さんによる挨拶の後、全員が自己紹介を行った。



ビュッフェ形式の食事を楽しむ。ワインやビールは飲み放題。



ツアー期間中に77歳の誕生日を迎えられた浜

田さん、ツアー出発日が誕生日となった中山恵三さんのお二人に田村和郎さんから記念品が贈られ、参加者全員から祝福を受けた。



食事の後はビンゴゲームで楽しんだ。1等賞には阪急交通社からアベックで乗れる高知・東京間の往復航空券、2等賞には同じく高知・大阪間の往復券が贈られた。3等賞から10等賞には、RKC放送から現地調達の賞品がマドリードでの昼食のときに贈られた。それ以外の者にもRKC放送のボールペンかストラップが贈られた。

5.2 バレンシア市内観光(11月18日)



RKCで月曜日から木曜日までの13時30分から16時25分田村和郎さんがパーソナリティーをしているラジオ番組「ワローのご機嫌ワイド」がある。その番組で今回の旅行の状況を紹介するため、ホテルを出発する前に、田村さんがRKCの久保田アナウンサーと携帯で国際電話をされ、その後で森岡さん親子がインタビューを受けた。



8時にホテルを出発し、市内観光に行く。バレンシア市内に入ると、斬新なデザインをした近代的な建物が立ち並んでいるのには驚かされた。

スペインは経済状態が悪いはずであるが、あちらこちらでビル工事や道路工事が進められていた。



バレンシアのカテドラル。ミサが行われていたので中の見学はできなかった。



トゥリア川に架かっているセラーノス橋を渡り、正面のセラーノスの門を抜けるとバレンシアの旧市街に入る。



聖母広場からラ・ロンハに向かう途中のサラゴーサ広場。



カテドラルの「使徒の門」の前にある聖母広場。昨夜、家内からもらって飲んだ下剤が効きすぎて朝から下痢が続いていた。

現地ガイドの女性にお願いし、広場の脇にあるカフェのトイレを借りる。



スペインの古い建物は、建物と建物の間に隙間がない。上の写真の建物は、4つの建物が密着して建てられている。左端の建物は修繕工事中。右から二番目の小豆色をした建物は、幅が1メートルほどしかない。



中央の陽が当たっている建物が世界遺産のラ・ロンハ。1483～1498年にかけて絹製品を取り扱う交易所として建てられたゴシック様式の建物。



ラ・ロンハの紋章



ラ・ロンハの建物。壁から飛び出しているのは樋。



中央市場の正面。デザインが素晴らしい。



中央市場は1928年に建設されたガラスドーム型の建物で、1300軒のテナントが入っている。

面積は8000平方メートルもあり、ヨーロッパ最大規模。商品の品揃と鮮度がよく、安い。



豊富で色鮮やかな果物



グロテスクな豚の顔。スペインではすべての部位を料理にする。



肉屋にはハモン・イベリコが吊されている。

イベリコとは、スペインが原産の黒い毛と蹄を持つ黒豚のこと。上質の脂肪と赤身が特徴。赤身には霜降り牛のようにサシが入る。



市場の近くで捕物の現場に遭遇する。両手を背中の方で縛られて路面に転がされている二人は麻薬の密売人。残りの二人は車で逃走した。その車の後部座席に警察官と思われる男性が飛び乗った。その後どうなったかは分からない。

5.3 バレンシアからラ・マンチャ地方へ



バレンシアから高速道路 A-3 号線を西に走る。道路標識で、頭に A の付く番号の道路は高速道路。N が付くのは国道、MA や CP、CO などは地方道。頭に E の付く道路は、EU 道路に指定されている高速道路。スペインでは E と A は被って表示されているが、一般に A が用いられていて、E の認知度は低い。

「バルセロナ～バレンシア」区間の高速道路は有料であるが、「バレンシア～グラナダ」「グラナダ～トレド」「トレド～マドリッド」区間はいずれも無料である。



日本の高速道路のようにトンネルや橋梁は少ない。地面を平らに敷均して舗装をただけの区間が多い。切土のり面も日本のようにモルタル吹付や法枠などのり面保護はされていない。雨が少ないので崩壊しないのだろう。ただし、エロージョン(浸食)は見られた。



山の上に無数に設置されている風車



所々で見かけた牛の看板



ラ・マンチャ川に造られたダム湖を渡る。横を鉄道が走っていた。



西に走るにしたがって、土地の色が赤くなる。農作物は、テーブルワインになるブドウ畑が多い。テーブルワインとは、主菜と一緒に飲まれる辛口または半辛口のワインのことで、食中酒ともいう。



高速道路を降りて国道 N-420 号線に入る。道路は、どこまでもどこまでも真っ直ぐに伸びている。

6. ラ・マンチャ (11月18日)

ラ・マンチャとは、「乾燥した土地」という意味。スペインで一番人口密度が低く、ブドウの作付け面積が多い所。



カンポ・デ・クリプターナの丘の上に保存され

ている風車。風車はスペインの風景の代表格。ここには 10 基の風車が残されている。

カンポ・デ・クリプターナは、「ドン・キホーテ」が物語の中で風車群を巨人ブリアレオと間違えて愛馬ロシナンテにまたがって突進したとされている場所。



入場料 60 セントを払えば風車小屋の内部を見学できる。



風車小屋の窓から眺めたラ・マンチャの町並み



田舎町でも電柱がない。景観を重視して電線は道路際の建物の壁に取り付けられている。



14時に学校の午前中の授業が終わるので、母親が車で子供を迎えに来ていた。昼食を自宅で済ませ、16時頃から再び午後の授業が始まる。

スペインでは、朝は軽くエスプレッソを飲んでクッキーを食べ、10時頃にバルで軽食をとり、メインの食事となる昼食は14~16時、夕食は20時30分頃からが普通である。



レストランに向かう途中で、ドン・キホーテとサンチョ・パンサのモニュメントを見かけた。



オリーブ畑の真ん中にあるレストランで昼食。田舎料理を食べたレストランは、旅行会社の指定店らしく、既に2台の観光バスが来ていた。



団体旅行の場合、女性はどこに行ってもトイレが大変。他の観光客がいないときには、男性用のトイレを使用。



レストランの前に、サイロを利用して作られた風車と鉄板で作られたドン・キホーテ、日本の農家で昔使用されていたものとよく似たトウミが展示されていた。



風車のそばに本物のロバとイベリコ豚(?)が放し飼いにされていた。



ラ・マンチャから高速道路 A-4 号線に乗り、ここから進路を南に変えてグラナダに向かう。

A-4 号線は E-5 号線でもあるが、路面が信じられないほど大きく波打っていた。この付近は地盤が悪くて圧密沈下を起こしたのだろう。

7. グラナダ (11 月 19 日)

グラナダは、かつてはイベリア半島最後のイスラム王朝ナスル朝グラナダ王国の都であり、壮麗なアルハンブラ宮殿で有名なところである。

グラナダとはスペイン語でザクロの意味。



AH グラナダホテルを 8 時に出発する。

7.1 アルハンブラ宮殿



馬車の門から城壁の中に入る。アラビア語で

「赤い城」を意味する「アル・ハムラ」から「アルハンブラ」という名が付いたと言われているが、確かに城壁は赤い色をしている。



城壁の内側へと進んでいくと、最初に現れる大きな建物がカルロス 5 世宮殿。



カルロス 5 世宮殿は外から見ると四角い建物だが、中に入るとイタリア・ルネッサンス様式で作られた円形の中庭になっている。



アルハンブラ宮殿の観光の目玉になっているナスル朝宮殿。30 分ごとに入場制限がされている。予約がないと 2~3 時間待ちになる。



耳にはイヤホンガイド「耳太郎」を付けている。これを付けていないとガイドの喋る声が聞こえない。



アルカサル王宮の入り口に当たる「裁きの間」。罪人達はここで取り調べられ、裁きを受けた。



ムハンマド 5 世による 1369 年のアルヘシーラス征服を記念して作られたファサード。白大理石できており、ファサードの枠には「我ある場所は王の座、我が扉は分岐点、西は我のなかに東があると信ずる。すでに予告された勝利への道を開くことをアルガニ・ピラーが我に委ねたり。そして我は地平線に曙光が差すようなその出現を待つ。麗しきその姿と心、神よその偉業を飾りたまえ」と書かれている。



メスアール(黄金の間)に美女が集合



メスアールのファサードの上部



メスアールの中央には、白大理石製の丸いひだ飾りの付いた噴水が鎮座している。



メスアールの中庭の柱廊



アラヤネスの中庭。背後の建物はコマレスの塔



アラヤネスの中庭。後は南側の柱廊。



大使の間の天井部分。砂漠の民だったイスラムの王家が、砂漠で眺めた星空をイメージしたもの。



大使の間の壁面に描かれた幾何学的模様



二姉妹の間



アルバイシン地区を背景に記念写真



リンダラハの中庭

7.2 ヘネラリッフェ離宮の庭園

ヘネラリッフェは、アルハンブラ宮殿の北、チノス坂をはさんだ北側の太陽の丘に位置する。別荘内のアセキアの中庭は、細長い池を囲むように花壇、噴水、柱廊が設けられている。



後方の教会はサンタ・マリア・デ・ラ・アルハンブラ教会。



野外劇場でトイレをすませて記念撮影



塔の散歩道の脇でたわわに実った柿。



ヘンラリッフェの下の庭園



ヘネラリッフェへの出口



アセキアの中庭。



アルハンブラへの出入り口に架けられたアーチ橋。この橋の直ぐ奥に水路橋も架かっている。



アセキアの中庭から上る階段



糸杉の散歩道



パール・ポラスというレストランで昼食。



「寄木細工」の土産店で寄木細工作りの実演



まずは野菜のサラダとフランスパン。メインディッシュはチキン。



寄木細工の土産店



パール・ポラスの対面にあるカフェテリア

8. ミハス (11月19日)

グラナダから A-92 号線を西に走り、途中から A-44 号線を南に走ってミハスへ行く。

ミハスは、地中海を臨む丘の上にある町で、ヨーロッパ各地の金持ちの別荘がたくさんある。



壁が漆喰で白く塗られたミハスの町並み



地中海展望台



地中海展望台から眺めたプール付きの別荘



観光バス乗り場の前の展望台



展望台から眺めた白壁の建物



バスの出発まで時間があるのでカプチーノをゆっくり飲んで駐車場に向かってっていると、添乗員の田宮さんが私たちを必死になって捜していた。出発時間を15分も過ぎていたというのである。

日本で私が使っている時計は電波時計であるので、スペインでは使えない。出国前に関西空港で安物の腕時計を買って使用していたのであるが、何かの拍子に時計の針を動かすネジが回り、時計が30分遅れていたというのである。

9. ロンダ (11月19日)

9.1 高速道路

ミハスからA-7号線をマルベリャまで西に走り、そこから進路を北に変えてむA-397号線を走る。

A-397号線は地形の急峻な山岳部を通っており、落石危険箇所が多い。落石防護ネット、落石防護柵、落石溝などの対策は行われているが、日本よりも対策の水準が低い。



山岳部を通る高速道路 A-397 号線

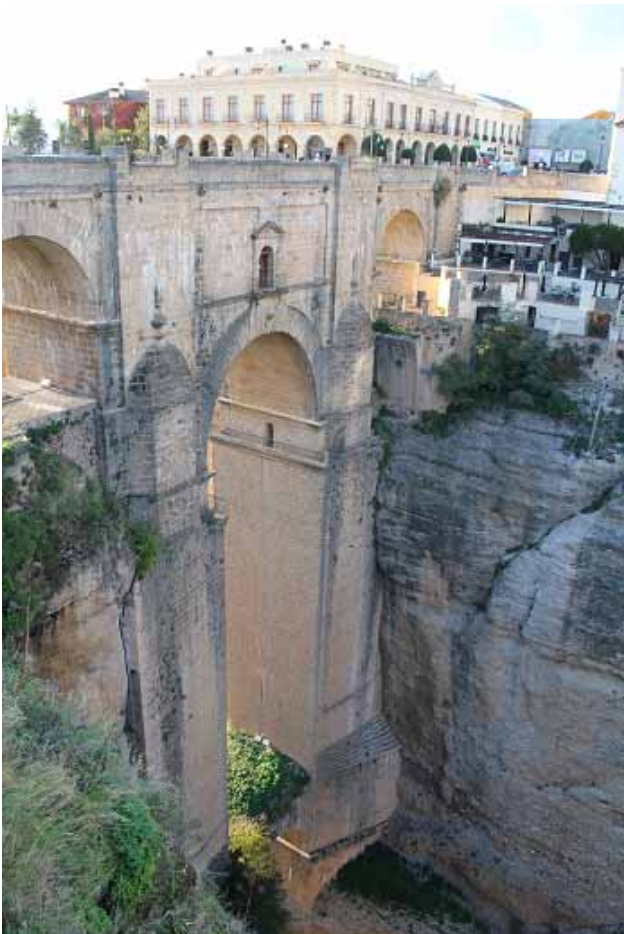


落石防護柵。金網の編み方が日本のものとは異なっている。

9.2 ロンダ市街

ロンダは海拔 739m の岩だらけの台地の上に作られた街。タホ・デ・ロンダの名で知られる溪谷（グアダレピン川）によって市街は2つに分断されている。

1791 年に新市街と旧市街の間を結ぶプエンタ・ヌエボの建設が完成している。



100m の断崖絶壁を跨ぐ橋のプエンタ・ヌエボ



後はロンダの旧市街



プエンタ・ヌエボの上流には、古代に造られたアーチ橋も残っている。



ロンダにはスペイン最古といわれる闘牛場があるが、プエンタ・ヌエボの新市街側にある闘牛場は 1785 年に落成したもの。

10 . セビリア (11 月 20 日)

セビリアは人口は 70 万人を抱えるスペイン第 4 位の都市。セビリア都市圏の人口は 130 万人。スペイン南部の政治、経済、文化の中心地であり、観光都市である。

日本では、セビリアの表記が一般に定着してい

るが、スペイン語ではセビージャと呼ばれる。

大航海時代には新大陸の発見と共に交易港として栄えた。闘牛やフラメンコの本場であり、セビリアの春祭りはスペインの三大祭りの一つ。



8時45分、4ツ星ホテル「ベルティエチェ」を出発する。

今朝、このホテルで朝食の際に外人客が置き引きにあう被害があった。ホテルの朝食はビュッフェ形式である。バックをテーブルに置いたまま料理を取りに行っている間に盗られたようである。昨日、田宮さんから「ホテル内で置き引きの被害が続出しているので注意して下さい」と言われていたので、私たちは被害を免れることができた。

10.1 スペイン広場



スペイン広場は、建築家アニバル・ゴンサレスの設計により、1929年に開催されたイベロアメリカ博覧会の際に建造されたものである。

今回の旅行は天候に恵まれていたが、スペイン広場の見学の時だけは雨傘が必要であった。



カーブをなした建物の基部にはベンチが並び、スペイン各県にちなむエピソードを描いたタイル画が飾られている。



アーチが連続した直径170mの半円形の柱廊。柱廊の両サイドには高さ80mの塔が建てられている。



水路にはベネチア風のアーチ橋が架かり、欄干はトゥリアーナの陶器で造られている。



柱廊の2階で田村和郎さんと一緒に記念撮影



中央部にある柱廊の2階へ上がる階段。



1階の柱廊



9時30分スペイン広場の見学を終え、これからショッピングへと向かう。

10.2 セビリアのカテドラル



プラダ、グッチなどのブランド品のバッグや財布などを売る「SASA」という店に寄る。店のオーナーらしき日本人女性から説明を受けた。この店は日本人の観光ルートになっているらしく、観光ツアーが次々と入ってきて店は混雑状態になっていた。



セビリアの路面電車。数分おきに走っている。



建物の左の門の古いコンクリートは、昔の城壁の一部。



街中には観光客用の馬車がたくさん走っている。



10.3 カテドラル(セビリア大聖堂)

セビリアのカテドラル(司教座のある教会、大聖堂)はスペイン最大というだけでなく、ローマのサン・ピエトロ寺院、ロンドンのセント・ポール寺院に次ぐ規模を誇っている。

カテドラル建設中の15世紀末、「完成した聖堂を見た者が正気の沙汰とは思えないほどに巨大な物を建設する」と宣言したと言われている。



プリンスまたはサン・クリストバルの門と呼ばれるカテドラル(セビリア大聖堂)の門



カテドラルをバックにツアー参加者全員で集合写真(いつの間にか部外者が一人紛れ込んでいた)



カテドラルの近くの土産物店。



セビリアのシンボルであるヒラルダの塔。世界で最も美しい塔の一つに数えられている。12世紀の半ばにモスクの塔アルミナールとして建てられたものであるが、その後現在の形に変わっている。



大司教館。セビリアにおける最も重要なバロック建築の一つ。16～18世紀にかけて建築された。



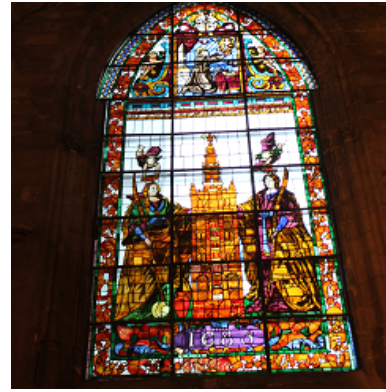
寺院内部は60本の柱で支えられた五身廊で構成され、壁面には多くの礼拝堂が並んでいる。



コロンブスの墓。コロンブスの遺骸は、パシャドリーからサント・ドミンゴ、そしてキューバを経て1899年にセビリアに到着した。



礼拝堂



色鮮やかなステンドグラス



ヒラルダの塔の内部には 34 のスロープが続いており、馬で駆け上げられるようになっている。



柱の太さは、大豊町の大杉くらいある。



10 分もあれば展望台に上ることができる。



セルバンテス枢機卿の墓



ヒラルダの塔の展望台からの眺め。中庭にはオレンジの木が植えられている。中庭はイスラム寺院の名残で、洗礼のパーティオと呼ばれるもの。



展望台から眺めた南の方角。前方に円形の柱廊のあるマエストランサ闘牛場が見える。



中庭の脇に展示されているカテドラルの柱の型枠。



カテドラルのトイレ。景観に配慮して中庭の奥の地下に目立たないように造られている。



建物の壁面から飛び出しているのは雨樋。

11. コルドバ (11月20日)

8世紀半ばから11世紀初はイスラム王朝、後ウマイヤ朝時代の都として栄華を極めた古都。地中海貿易を支え、学問、芸術の中心地として世界に名を馳せた。

11.1 ローマ橋



グアダルキビール川に架かるローマ橋。ローマ時代に造られた橋。右側の塔は見張りのために造られたカラオラの塔。現在は博物館として利用されている。



上流側から眺めたローマ橋。



橋の中央には白い天使の像が建てられている。コルドバの守護天使サン・ラファエル。



サン・ラファエル像の足元に見える赤い物は、
地元の人たちが供えるロウソク。



プエンテ(橋)の門を潜るとコルドバの旧市街

11.2 メスキータ

メスキータ(モスク)とは、「ひざまづく場所」と
いう意味。



メスキータ・カテドラルの鐘楼



コルドバのメスキータは、ナツメヤシの林に似て
いる。ナツメヤシの木は、遠く祖国を離れたアラ
ブ人の心の拠り所になっている。



メスキータの列柱群



メスキータの中央部にあるカテドラルの祭壇



写真撮影のスポットである花の小径。建物の間にカテドラルの鐘楼が見える。

12. 新幹線 AVE (11月20日)

AVE は"Alta Velocidad Española"(「スペインの高速」の意)の略称であると同時に、スペイン語で鳥の意味。翼を広げた鳥が列車のシンボルマークになっている。

車両にはフランスの TGV の技術供与を受けて造られたものが運用されている。



コルドバ駅の正面玄関



案内板。18時29分発のマドリッド行き新幹線 AVE-02171 に乗る。



コルドバ駅の中。X線による手荷物検査を受けて構内に入る。



新幹線 AVE



新幹線 AVE の中。日本の新幹線のような広軌ではなく狭軌なので車内が狭い。



車両の中央はテーブル席になっている。テーブル席の前後で座席の向きが反対になっている。座席は固定されている。日本の新幹線のように向きを変えることはできない。



並んだ座席の間には、音楽を聞くためのイヤホンの差し口と電源(コンセント)が付いている。

13. マドリッド (11月21日、22日)

マドリッドはイベリア半島のほぼ中央に位置するスペインの首都。人口300万人を抱えるヨーロッパ有数の大都市。16世紀よりスペインの政治、経済、文化の中心として発展してきた。



21時よりマドリッド市内のレストランで、タバ

ス料理を食べる。

タパス料理とは、小皿に入れて出す料理のこと。タパスとは「ふた」の意味。昔、バルでは飲み物を入れた容器に蓋をするように一枚のハムを被せて客に出していた。このことから、小皿料理をタパスと呼ぶようになったようである。



タパス料理



宿泊したホテルは「オキシデンタル・ミゲルアンヘル」。これまでのホテルも建物が新しくて部屋が広がったが、ボーイの質と朝食の料理が全く違う。さすがは五ツ星ホテルである。

13.1 プラド美術館 (11月21日)

プラド美術館は、所蔵絵画8000点以上を有し、パリのルーブル美術館、ロンドンのナショナル・ギャラリーと並ぶ世界三大美術館の一つと言われている。

ベラスケス、ゴヤ、グレコらスペインの画家の作品をはじめ、ラファエロ、ボッシュ、ルーベンスなどの名作も数多く展示されている。



マドリッドとトレドのガイドは、川田さん。40数年前にマドリッドに来て、今はスペイン国籍を持っているとのこと。

プラド美術館で一人のガイドが説明できるのは最大30人という制限があるため、2班に分かれる。私たちの班のガイドは川田さん。



プラド美術館の入り口



美術館への入場を待っている間に、サン・ヘロニモ・エル・レアル教会をバックに記念撮影。

美術館では、グレコの「聖三位一体」「受胎告知」「聖霊降臨」「キリストの復活」「胸に手を置く騎士の肖像」、ベラスケスの「マルガリータ女王」「ラス・メニーナス」「皇太子バルタサル・カルロス騎馬像」「ブレダの開城(槍)」、ゴヤの「カルロス4世の家族」「裸のマハ」「着衣のマハ」「我が子を喰らうサトゥルヌス」の各作品に

ついてガイドの川田さんから詳細な説明をしていただいた。

学生時代に川田さんのような教師に美術を教わっていたら、画家を目指していたかも知れないと思えた。

残念なことに美術館の中は撮影禁止であった。

13.2 マドリッド市内観光



スペイン広場の中央には、スペイン文学の傑作「ドン・キホーテ」の原作者セルバンテスの死後300年を記念して作られた「セルバンテスの記念碑」が立ち、その足元にはドン・キホーテと従者サンチョ・パンサの銅像がある。

前日、この公園で野外コンサートが開かれ、そのために作られたステージが残されていてセルバンテスの記念碑を遮っていた。残念。



フェリッペ5世によって造られた王宮。外部はフランス様式であるが内部はイタリア様式。部屋数は大小合わせると2864部屋ある。



オリエンテ広場には、王たちの彫像 20 体が広場の中央庭園を挟み南北に分かれて並んでいる。像は石灰岩で作られているので白い。写真は南側の像。



オリエンテ広場から南側に歩いて直ぐの所にある革製品などを売る店でショッピング。



王宮の東側に広がるオリエンテ広場の中心に立つフェリペ 4 世の騎馬像。スペインの画家ベラスケスがデザインしたもの。



私が 13 年前にマドリッドで家内への土産に買った皮の財布を気に入っており、マドリッドでは皮財布を買うことにしている。しかし、皮財布は買わずにレクエ製のスチームボックス(蒸し器)を嫁いでいる娘用とわが家用に買う。東京で買うより 2000 円ほど安いのに感動したのが理由だとか。



オリエンテ広場の東側で、大勢の人が集会をやっていた。昨日がフランシスコ・フランコの命日であったので、現政権に不満を持つ右翼の人間が集会をしているということであった。



スペインでは路上に隙間なく縦列駐車している光景をよく見かける、どのようにして駐車するのか興味があった。ショッピングからの帰りに運良く縦列駐車をしている現場に遭遇した。赤い車がバックで駐車しているところであるが、後方の車に当てながら駐車した。



日本料理・中華料理「大吉」で和食を堪能。みそ汁を飲むと、細胞が活性化する感じがする。



17日の夜の「ウェルカムパーティー」の際に行われたビンゴゲームの3位から10位の景品が田村和郎さんから贈られた。9位と10位は革製品のペンケースでした。大切に使います。

14.トレド (11月21日)

トレドは日本の奈良や京都のような歴史のある古い町。



タホ川の向こう側に作られたトレドの町



タホ川の両岸は地形がとても急峻であり、トレドの町の対岸を走る道路は擁壁から床版を張り出して拡張されている。



斜面には落石対策として落石防護ネットや落石防護柵が施工されている。



タホ川を挟んだ対岸の道路のほぼ中央に位置する展望台から眺めたトレドの町。

この展望台よりももう少し上に行くと国営のホテルがあり、そのテラスからもトレドの町並みを展望することができる。17年前に来たとき、ホテルで昼食をとり、テラスから眺めたことを思い出した。



トレドの町をバックに 34 名全員で第 2 回目の集合写真



タホ川に架かるアルカンタラの橋



トレドの町には、昔の町並みが保存されている。



トレドの町中にバスは入れない。駐車場からエスカレーターで上る。



家を修復するには、国の許可が必要。



この狭い坂道を自動車も通行する。



トレドの町の街灯



サント・トメ教会の入り口。ここには、エル・グレコの最高傑作であり、世界三大名画の一つとされている「オルガス伯の埋葬」(1586年)の絵画が飾られている。

絵画の好きな人にとっては、この絵を見るだけでもトレドにくる価値がある。



カメラ撮影が禁止の「オルガス伯の埋葬」
(ガイドブック「トレドその歴史と芸術」より)



トレドのカテドラル(大聖堂)。スペインを宗教的に区分すると12の大司教区に別れるが、最も格式が高いのがトレドの大司教。

カテドラルの中は撮影が禁止されていた。撮影を許可するとガイドブックや絵はがきが売れなくなるためのようである。



トレドの町並みの美しさには感動させられる。



トレドの町を観光した後、トイレ休憩も兼ねて土産物屋に立ち寄る。



スペイン最後の夜は、マドリッドの「TABLAO FLAMEMCO」というレストランでフラメンコショーを観ながら食事。まずはシェリー酒でサルー(乾杯)。



食事は8時半からであったが、フラメンコショーは9時半から始まった。

フラメンコは、スペイン南部のアンダルシア地方に伝わる芸能で、歌、踊り、ギター伴奏が主体となっている。

インド、パキスタンから流れてきた放浪者であるジプシーが、言葉を使えないので12拍子の拍手をしながら踊りと歌で辛い気持ちを表現したのがフラメンコのルーツとされている。



食事を終えて本場のフラメンコショーに見入る。



最後に、歌い手が年配のカンタオールに変わり、踊り手がバイラオール(男性)に変わった。前座のフラメンコとは格が違うと感じた。テンポが速くてシャープな踊りは見事。

15. ローマ市内観光 (11月22日)

マドリッドのホテルを午前3時45分に出発して、空港へ行く。マドリッド空港6時発のAZ059便でローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港へ。



レオナルド・ダ・ヴィンチ空港からローマ市内までの高速道路は交通事故のために大渋滞。



バスの車窓からコロッセオなどの古代ローマ遺跡を見物



トレヴィの泉。17年前の1993年に泉の脇で後ろ向きに立って、コインを右手で左肩越しに投げたところ、2003年に家族4人揃ってここに来ることができた。また、そのときにコインを投げたお陰で今度は家内と訪れることができた。



トレヴィの泉



トレヴィの泉に向かって右手の角に名だたるアイスクリーム屋がある。そこで皆さんは名物のアイスクリームに満足していた。私は妻が買ったものを少し舐めさせてもらった。糖尿病であるのが残念。

この後、スペイン広場を見物する予定になっていたが、高速道路の渋滞のため割愛し昼食のレストランに徒歩で向かう。



昼食のピザを食べたレストラン。ナポリ風の直径30cmほどの大きなピザが一人前であった。全て平らげた人もいたが、大半の方は半分ほど残していた。身体の小さい日本人、特に年配の方や私のような糖尿病患者には多すぎた。



ローマのアパートの屋上には、写真のようにテレビのアンテナが建てられている。



ローマでは写真のような落書きが至る所で見られた。スペインに比べて観光に対する取り組みの差を感じた。

16. あとがき

スペインは 13 年前にピレネー山脈を越えてサンチャゴ・デ・コンポステラートに至る「巡礼の道」とマドリッド周辺を観光しており、素晴らしい景色は十分認識しているつもりであった。

しかし、今回訪れたスペインは、私の想像を遙かに超えるものであった。目にする風景や建造物がどれも美しく、この感動を永遠に記憶にとどめておきたい、この街並みを家族や知人に見せてやりたいという思いで、カメラのシャッターを押し続けていた。その結果、撮影した写真は 1,500 コマを超えていた。

今回の旅行は行程がハードであったが、早朝の朝食までの時間を利用して前日に写した写真をパソコンに取り込んで整理した。また、空港での待ち時間や飛行機での移動時間を利用して、添乗員やガイドから聞いた説明、現地で買った日本語

版のガイドブックの解説などをワープロで書き留めた。

4 年前にドイツ・ハンガリーの旅行記を執筆し、ツアーで同じだった数名の方に贈呈したところ、稚拙な文章であるにも関わらず望外に喜んでいただいた。そのようなことがあって、今回は最初から同行したツアーの皆さんに旅行記を読んでもらうつもりで写真を撮った。

天候にも恵まれたが、添乗員、ガイド、バスのドライバー、同行したツアーのメンバーに恵まれた。添乗員の田宮勝則さんは、阪急交通の人気添乗員と言われているだけのことはあって、知識の豊富さには本当に驚かされた。現地のガイドの説明は分かり易くてユーモアたっぷりであった。ツアーのメンバーは、旅慣れた方ばかりで、私たち夫婦以外は誰もが時間を厳守した。食事の時の会話も楽しむことができた。

関西空港から大阪伊丹空港までのバスの中で、田村和郎さんから次のような主旨の挨拶があった。

『コルドバから新幹線 AVE に乗ったときに、皆さんが女学生の修学旅行のような笑顔をされていたのがとても印象に残っている。赤い目をしているのに「よく眠れました」と応え、皿に料理をたくさん残されているのに「とても美味しかったですよ」と応える。そのように思いやりのある素晴らしい人達と一緒に旅行ができた。反省すべきところもある。これからも同窓会のつもりで参加していただきたい』

メンバーの最後をいつも歩き、参加者全員が楽しい旅になるようにと一番心配りをされていたのは和郎さんであった。

このツアーに参加させていただき本当に幸運であった。皆様のお陰で、還暦記念旅行にふさわしい、思い出に残る楽しい旅行となった。皆様に心より感謝申し上げます。

〒781-5106 高知県高知市介良乙 1000-37

右城猛・絹枝

Tel: 088-860-5102、Fax: 860-5104



2010年11月21日トレド